シリーズ
企業訪問

株式会社 リンペイ

～福島県に「彩」を添える 塗料のリーディングカンパニー～

髙橋　信之 社長

企業概要

代表者：代表取締役社長　髙橋　信之（たかはし　のぶゆき）
所在地：福島市方木田字谷地18－１　　**従業員**：160名
創　業：1946年４月　　**ＴＥＬ**：024－545－3511
資本金：4,500万円　　**ＦＡＸ**：024－545－9431
事業概要：化学製品卸売業（塗料および関連商品等）、安全標識等設置工事業および塗装等工事業

我が国の塗料産業は、明治時代の文明開化とともに根づいてきたといわれ、船底の塗料開発による特許第１号に始まり、優れた合成樹脂塗料が開発されてきました。その後、多くの産業と同様に高度経済成長期に飛躍し、現在では成熟期に差し掛かっています。

こうした状況下で、株式会社リンペイは、今年で創業70周年を迎えた塗料等の販売と塗装工事業を主力事業として取り組む県内の有力企業です。当社は、塗料の総合商社として、県内外の建設業や製造業などと取引を結んでいることに加え、安全標識等の設置工事、道路や橋梁等の塗装工事も担うなど、福島県の安全と安心に貢献しています。

そこで今回の「企業訪問」では、福島市にある本社を訪問し、髙橋信之社長に創業から今後の展開に至るまで、経営にかける思いや事業内容についてお聞きしました。

● 創業からの沿革についてお聞かせ下さい

私の父髙橋林平が、戦前に塗料も扱う雑貨店で働いていたことから、終戦後の1946年に母と二人で福島市清明町に「髙橋林平商店」を創業しました。そして、1949年に大手塗料メーカー「関西ペイント」の特約店となり、1961年に株式会社へ改組、1989年には現在の「株式会社リンペイ」に社名を変更しました。現在の事業所は、福島支店、郡山支店、いわき支店、会津営業所、相双営業所、白河営業所と県内全エリアをカバーしています。

いわき支店は、1957年開設と支店のうち、最も早く開設しましたが、これは父の急逝を受けて２代目社長となった母が、港のあるいわき市は船に対する塗装の需要が高いだろうと出店を提案したのがきっかけでした。当社の船舶用塗料は、保色

本社社屋

性と耐候性、耐水性に優れているだけでなく、海藻や貝類が付着しにくい安定した防汚効果を長期間発揮することから、漁業関係の皆様に好評をいただきました。こうした母の功労を称えて、母の背丈に合わせて作った商品棚を当社の原点として、今でも本社内にそのまま設置しています。

また、2009年に調色工場である「福島カラーセンター」を現在の方木田に移転新築しました。そして同センターでは、今年、最新設備を増設したことにより、東日本で最大級の出荷量が可能となりました。

● 経営理念についてお聞かせ下さい

当社の経営理念は、「信頼・創造・挑戦」です。まず第一に「信頼」ですが、お客様の満足を常に考え、お客様と共に栄える「共存共栄」の関係を基に、お客様に信頼される企業を目指しています。次に、「創造」は、社会の時流を敏感に捉え、新たな商品やサービスを創造し、地域社会に貢献する企業でありたいということを意味しています。最後に、「挑戦」は、弛まぬチャレンジ精神を持ち、何事も恐れず、生活に彩りを添える色彩文化を積極的に提案する企業であれということです。

そして、こうした企業理念を背景とした当社のコーポレート・スローガンは、働きやすい職場環境をつくり、発想の転換を図ることとしています。現状では、私たちの業界を取り巻く外部環境も目まぐるしく変化しますので、当社の経営体制も外部環境の変化に柔軟に対応できるようにしなければならないと常日頃から考えております。

● 御社の企業文化についてお聞かせ下さい

地域密着と地元貢献が当社の企業文化となっています。当社は創業以来、地域密着と地元貢献をポリシーに事業を展開しており、４月から11月まで月１回、全店で店周半径500m内の清掃活動や、行政および町内会主催による福島市の荒川清掃、郡山市の三春ダムなどの清掃活動をそれぞれ実践しています。また、県警による春・夏の交通事故予防週間内の出勤時間帯時に、「交通安全標語」の看板を立て、福島支店の店周半径500m内４ヵ所で交通誘導も行っています。こうしたことなどから、現在では、地域密着と地元貢献が当社の行動規範として、社員に定着しているものと考えます。

例えば、2014年２月に福島市内で大雪が降った時、私が号令をかけたわけでもなく、早朝、社員たちが自発的に雪かきをしたため、当社の周辺の道路だけ雪が残ってなくて、周辺住民の皆さんに驚かれたのと同時に、大変感謝されたというエピソードもありました。こうした取り組みなどから、社員が当社オリジナルの黄色のジャンパーを着て、当社の周辺を清掃していると、近所の吉井田小学校の生徒が親しみを込めて挨拶してくれるなど、地域の方々との交流が今でも続いています。

また、地域に密着したイベントとして、県内各支店で定期的に「塗装体験教室」を開催しており、地元住民の方などを対象に、塗料の基本的な知識に関する講義の後、実際に木製品に塗料を塗ってもらうなどして、塗装は意外に簡単だということを感じていただいています。

● 御社の事業概要についてお聞かせ下さい

当社の事業は、大きく分けて卸売部門と建設部門の２つがあり、卸売部門では、塗料を中心とした化学製品の卸売・販売を手掛けており、塗料関連商品で県内のトップシェアを誇っています。数万アイテムという膨大な品揃えを背景に、用途は建築関連や自動車から工場まで多岐にわたり、本県および隣県の多くのお客様と取引を結んでいます。

一方、建設部門では、建設業許可のうち、当社の主要工事である塗装工事業の他に、数種類の工事業許可も取得し、国土交通省・県庁・県警・水道局・各市町村等に関わる公共工事および民間の事務所・一般家庭における戸建て改修工事も手掛けるなど、地域社会における安心・安全の確保を通して、地域貢献を果たしているものと自負しております。

道路の白線引き車両

また、「福島カラーセンター」では、大手塗料メーカーからの注文により、数種類の原色塗料を調色して多様な色彩の塗料を加工製造し、納品するとともに、当社ユーザーへ販売もしています。

● 御社の技術力についてお聞かせ下さい

当社は、塗装分野では建築塗装技能士・金属塗装技能士や調色技能士など、建設分野では建築施工管理技士・土木施工管理技士など、有資格取得者がのべ180人を超えるスペシャリスト集団です。当社では、お客様に提供する技術水準の「見える化」を図り、お客様からの信頼を勝ち取るため、事業領域に関わる資格取得を奨励しています。そのため、社内で資格取得の勉強会を開催したり、社外セミナーに参加させたりするなど、資格取得に対する社内のバックアップ体制も整備しています。また、2003年にISO9001認証、2005年にISO14001認証をそれぞれ取得しており、塗装工事や交通安全施設工事の設計・施工、塗料・塗料に関わる化学薬品・設備機器の販売とアフターサービスにおける品質管理と環境マネジメントシステムでは、国からのお墨付きをいただいています。

● 御社の職場環境づくりについてお聞かせ下さい

当社は、「福島県次世代育成支援企業認証制度」において、2012年に「仕事と生活の調和」、2013年に「子育て応援」それぞれの認定を受けています。したがいまして、当社では仕事と家庭の両立

調色工場「福島カラーセンター」

全自動ジャイロ撹拌機
（缶の蓋を締めて塗料をかき混ぜる機械）

全自動調色機

支援およびパート労働者の公正な処遇、男女共同参画、子育て支援に着目し、ワークライフバランスを図るとともに、正規・非正規や男性・女性に関係なく、全社員が最大限に能力を発揮できる快適な職場環境づくりを実現しています。また、2012年に「安全衛生推進協議会」を設立し、年に数回の安全パトロールを実施するなどして、災害を未然に防止し、安心・安全な職場づくりにも取り組んでいます。

● 御社の震災による影響についてお聞かせ下さい

当社では、震災による設備の損壊など、大きな物損はありませんでしたが、浜通りの取引先が減少するなどの影響を受けました。しかしながら、震災により本社と各支店間の連携が強化されたことに加え、社員の一体感が高まり、震災直後の最悪期を脱することができました。そして現在では、県内の除染工事で使う高圧洗浄機の販売やサービス支援にも取り組み、復興特需を取り込んでいることなどから、売上高は震災前の水準を上回っています。また、震災後の県内企業では人手不足が深刻な問題となっていますが、当社では、毎年一定数の新規採用を確保することができ、マンパワーの低下は全くありませんでした。

● 最後に、今後の展望についてお聞かせ下さい

現在の建設業界では、復興特需により業況の良い企業が震災前と比較して増えています。しかし、復興特需はいずれ終わるものとみられ、建設業の好業績にも歯止めがかかり、塗装を担う当社でも少なからず、その影響を受けるものと考えております。但し、既存の建築物における改修や塗装工事といった定期的なメンテナンス工事については、建築物の老朽化を背景に、今後も安定した受注量を確保できるものと見込んでいます。

また、塗装もただ塗るだけでなく、「抗菌塗料」や「遮熱塗料」などの新製品開発も進んでおり、

資料を基に熱心に説明される髙橋社長

当社で取り扱っている虫よけ塗料「アレスムシヨケクリーン」は「2015年日経優秀製品・サービス賞」の「最優秀賞・日経産業新聞賞」を受賞するなど、新たな需要の喚起に結びつくものと期待しています。

当社は今年で創業70周年を迎えましたが、これは社員に恵まれ、多くのお客様や先輩、メーカーに支えられて成し遂げることができたものと考え、皆さんに感謝しながら、自信と誇りを持って今後も企業の存続を目指します。

【インタビューを終えて】

社長のお話から初めに感じた当社の印象は、70年の歴史により醸成された企業文化と強固な販売網を礎としながらも、ワークライフバランスなど時流に敏感で、環境変化に対応しようとする柔軟性です。また、２代目社長のお母様の背丈に合わせて作った商品棚を当社の原点として、今でも使用しているとの話を伺い、ファミリー企業ならではの温かさを感じました。

今回の取材により、当社は、圧倒的なブランド力と大手メーカーからの安定した受注体制に加え、確固たる技術を持った人材と柔軟な発想を尊ぶ社風から、今後も県内の塗料業界を牽引し続けていくものと確信しました。

（担当：和田賢一）